



鎌倉市に関する基礎情報

第一回脱炭素かまくら市民会議
10月19日(土)

脱炭素かまくら市民会議実行委員会メンバー および
○東京大学未来ビジョン研究センター 大塚彩美

鎌倉市



市の木 ヤマザクラ



市の花 リンドウ



	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市
行政区の面積	39.66 km ²	69.56 km ²	35.70 km ²
人口	172,669人	444,108人	245,524人
世帯数	76,673世帯	203,898世帯	108,123世帯
1世帯あたり人数	2.25人	2.18人	2.27人
人口密度	4,368人/km ²	6,385人/km ²	6,877人/km ²
DID*人口密度	6,970人/km²	8,879人/km²	9,871人/km²

* DID 人口集中地区：国勢調査の集計の統計地域で、人口密度が4,000人/km²以上かつ合計人口が5,000人以上となる地域



データの出典：地図 (<https://power-point-design.com/ppt-design/kanagawa-for-powerpoint/#toc2>)

右表は各市の市役所HPの情報を基に作成、写真は第3次鎌倉市総合計画 第4期基本計画表紙より

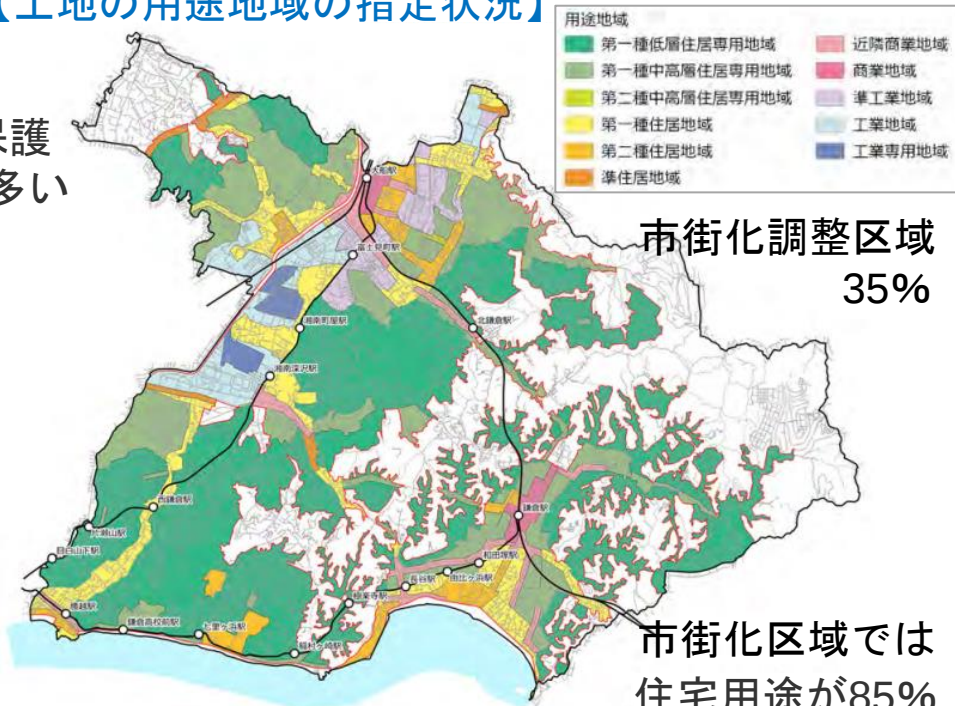
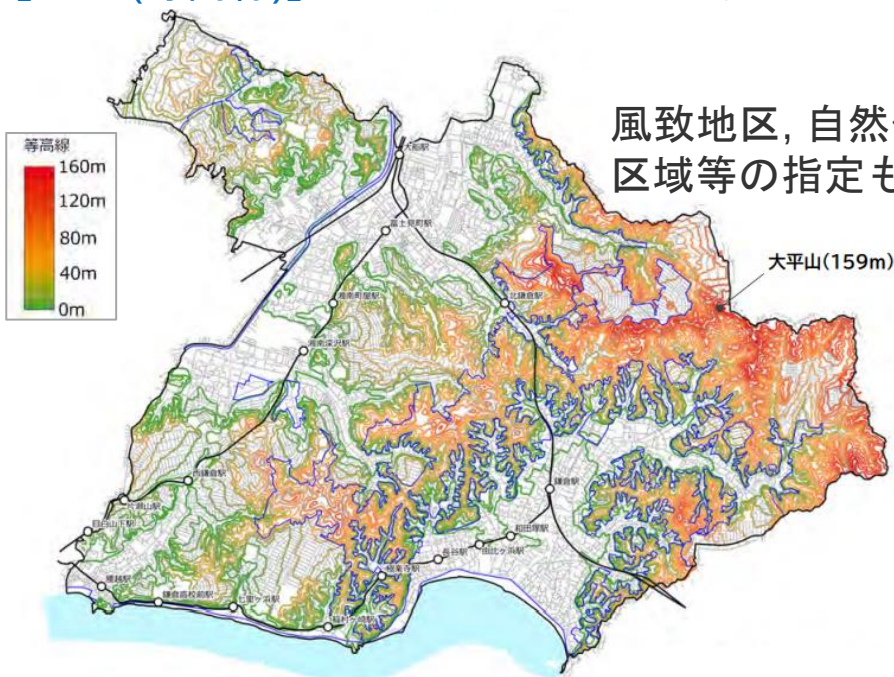
地勢

三浦丘陵の北部域に位置し、地形は丘陵地が多くを占める。

鎌倉地域は海岸へ繋がる低平地の周りに大小の谷戸が存在する特徴的な地形。北西部柏尾川河岸周辺(大船・玉縄・深沢地域)には平地が広がり、それを生かして工業/準工業地域も存在。丘陵地や谷戸では奥深くまで宅地化されている。

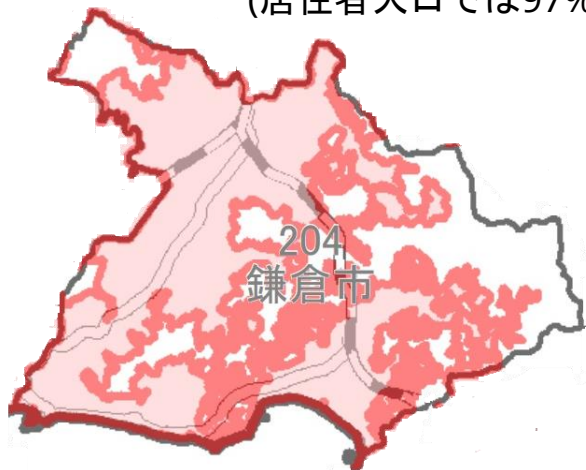
【地形(等高線)】

【土地の用途地域の指定状況】



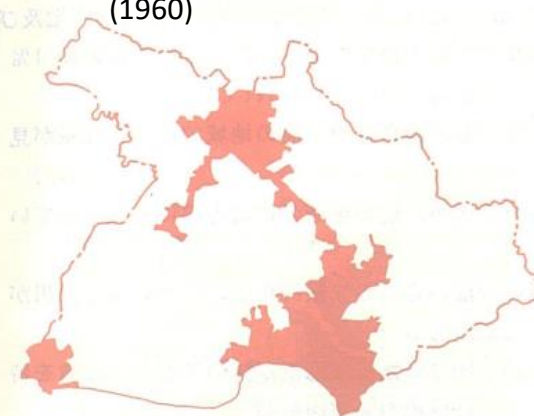
人口集中地区 (DID) の広がり

2020年国勢調査による
DID地区面積 2388ha (全市の60%)
(居住者人口では97%)



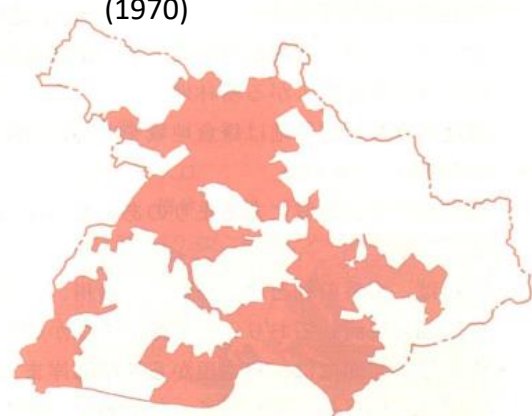
現在の都市の形は1980年までに形成、
1990年をピークに微減、以降はほぼ
横ばい

昭和35年（人口集中地区面積840ha）
(1960)



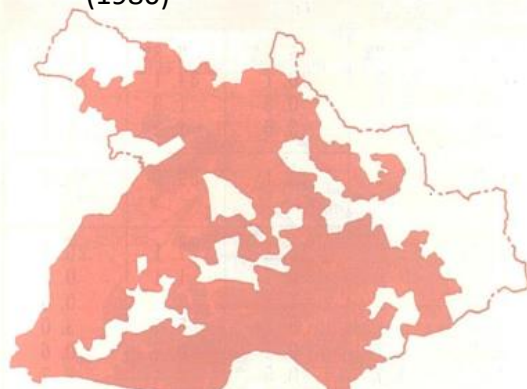
大船駅から湘南深沢駅までの一帯、北鎌倉
駅周辺、鎌倉地域の平地部及び腰越駅周辺

昭和45年（人口集中地区面積1,170ha）
(1970)



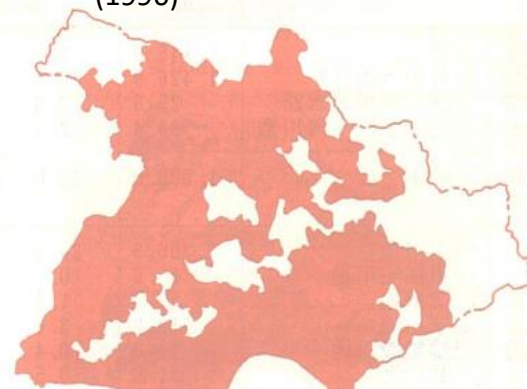
人口が急増した時期である昭和45年(1970年)
時点では丘陵地の住宅地にも拡大

昭和55年（人口集中地区面積2,720ha）
(1980)



概ね現在の市街化区域と同一
のエリアが人口集中地区に

平成2年（人口集中地区面積2,760ha）
(1990)

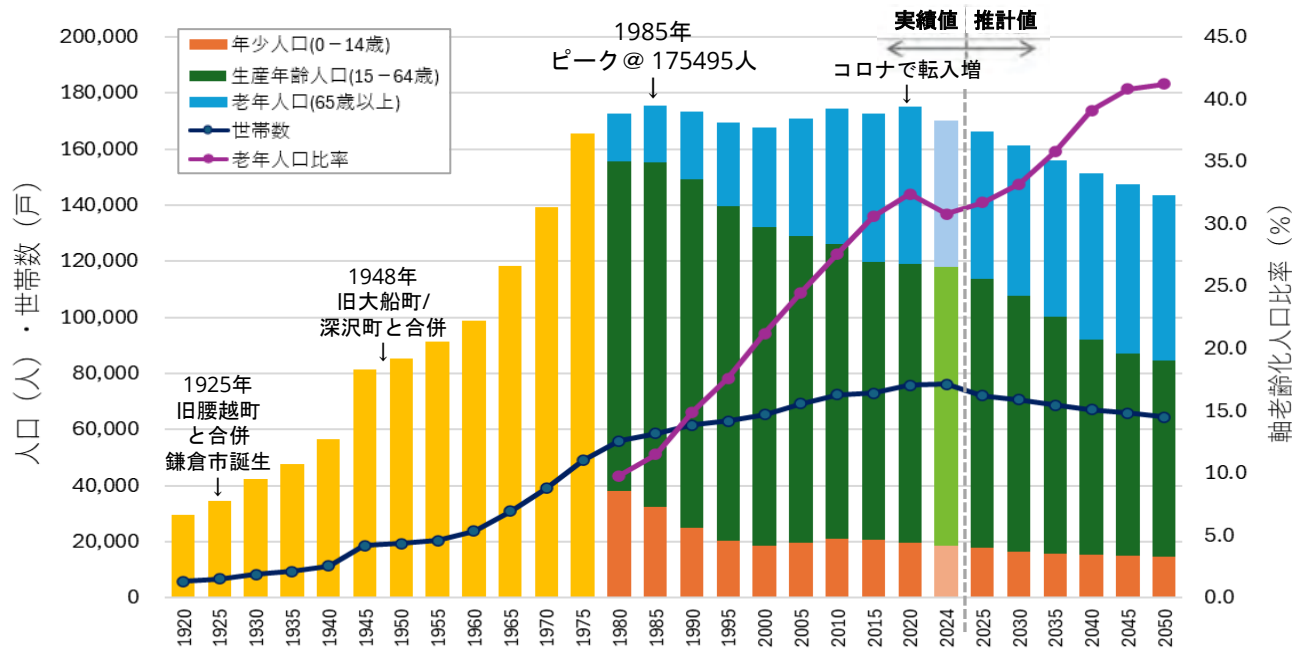


1980以降ほぼ横ばい、かつこの年がピークに

人口の推移

総人口 172,669人
総世帯数 76,673世帯
1世帯あたり 2.25人

高度経済成長期の大規模宅地開発による急増を経て1985年に総人口ピーク(国勢調査値,年統計では1987年の176,358人)。その後は微増微減しつつ、コロナ禍前後の転入増で現在も17万人台を維持。市の人口ビジョン推計に+2000人程で推移も、今後は急速に減少見込み(2050年には2020年度比で17%減)。



世帯数はこれまで一貫して増加してきたが、今後は人口減に伴い減少見込み。1世帯当たり人数も減少しており、今後は特に高齢者の「単独世帯」が増加する半面、「夫婦と子供からなる世帯」が減少すると予測されている。

人口・年齢構成に関する参考データ

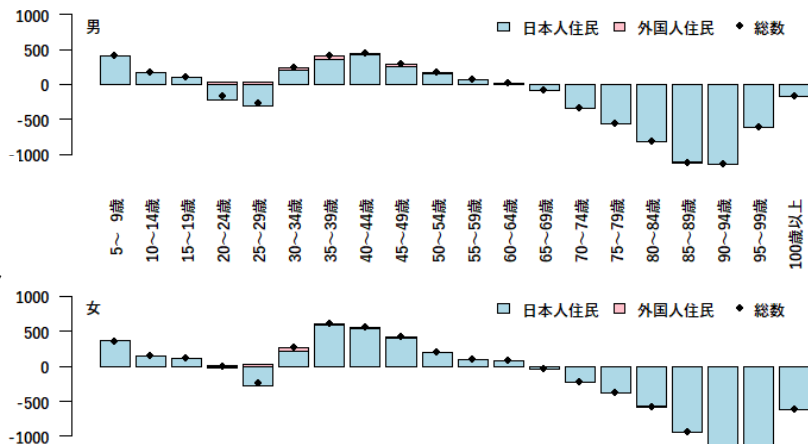
【人口推移予測に関する比較】

	鎌倉市			神奈川県			全国(万人)		
	2020年	2050年	2050/2020	2020年	2050年	2050/2020	2020年	2050年	2050/2020
総人口	172710	143613	83.1%	9023259	8171080	91%	12615	10301	82%
年少人口(0-14歳)比	11%	10%	72%	12%	10%	78%	12%	10%	71%
生産年齢人口(15-64歳)比	58%	47%	68%	62%	52%	76%	58%	51%	72%
65歳以上人口比	32%	43%	110%	26%	37%	128%	28%	39%	113%
75歳以上人口比	19%	25%	109%	14%	22%	139%	15%	23%	130%

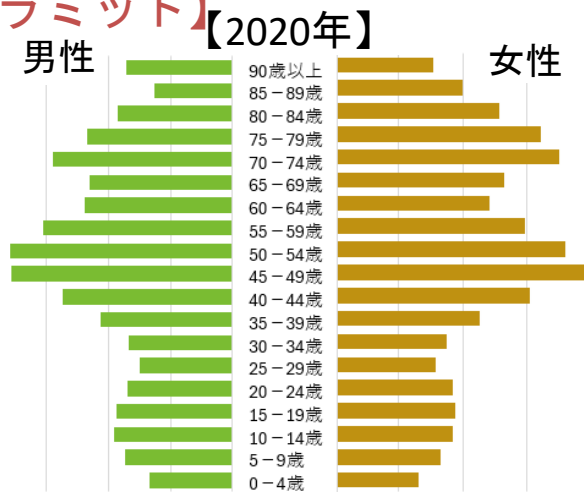
鎌倉市の人口減少率予測は「全国」と類似。より拠点性の高い地域(横浜)などを抱える「神奈川」より人口減が顕著。

【年齢5歳階級別 対5年前の 人口変動】

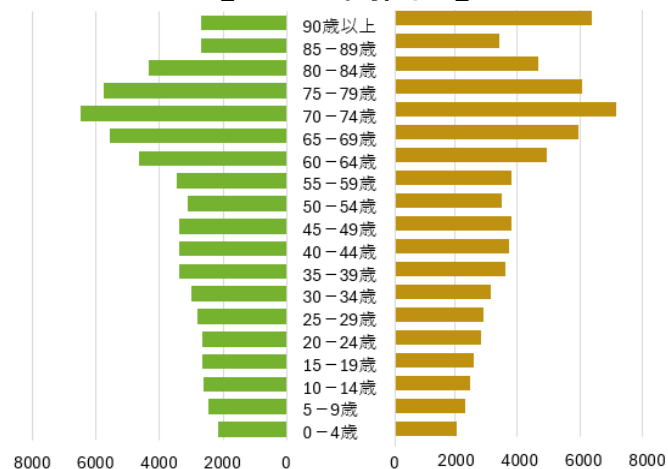
30～40代世代の流入が多い反面、20代若者の転出も多い。



【人口ピラミッド】

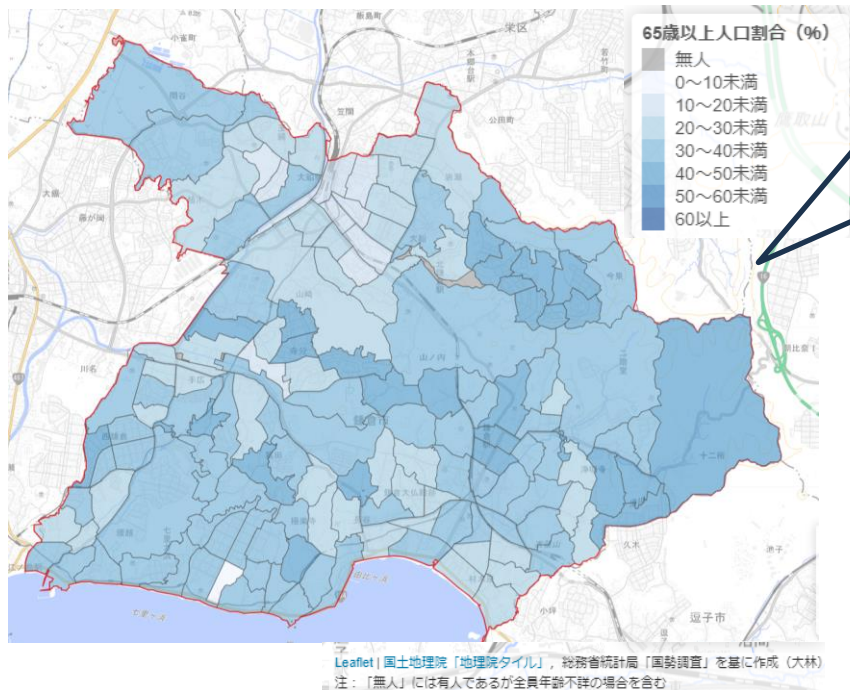


【2050年推計】



地区別高齢化率

【2020年国勢調査ベースの65歳以上人口率】

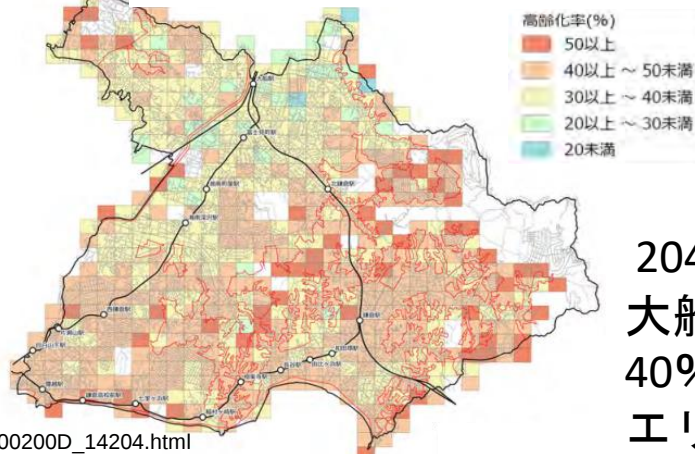


高齢化率ランキング (カッコ内は地域人口)

- 1位: 今泉台7丁目 49.0% (810)
2位: 浄明寺6丁目 48.0% (1006)
3位: 今泉台3丁目 46.1% (544)
:
150位: 梶原1丁目 18.1% (763)
151位: 台5丁目 17.5% (2761)
152位: 玉縄1丁目 14.1% (1431)



【2040年 高齢化率予測】



2040年には
大船駅周辺でも
40%を超える
エリアが出現...



昼夜間人口比率

=夜間人口に対する昼間人口の割合 **97.2%**

つまり、総人口とほぼ同じだけの人が日中も市内にいる。

ただし人口の出入りがないわけではない。

【鎌倉在住者の通勤・通学先】

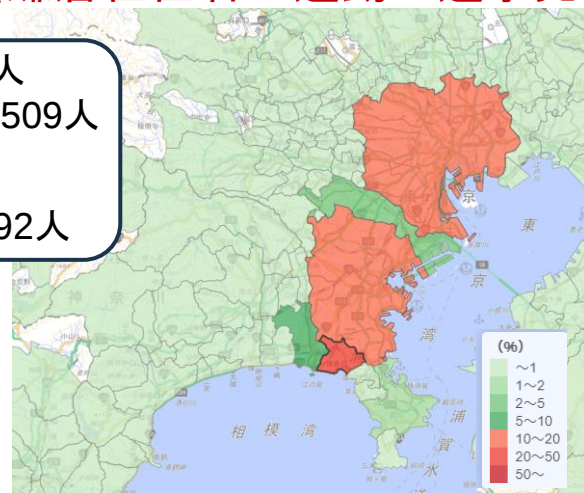
(出た分、入ってくる)

「仕事」や「教育」の場がある。

「観光資源」もある。

=**地域に拠点性がある。**

就業/通学者 83381人
市内で従業/通学 32509人
市外から鎌倉市へ
従業/通学 41492人



ただし、人口増加率や合計特殊出生率は
相対的に低い状況。

男性若年層はすでにベッドタウン化、
女性も近づきつつある...

「市民」とは誰か？「市民＝住民」か？ ⇒**地域への貢献を左右する...？**

【参考: 近隣他都市の昼夜間人口比率】

	厚木市	平塚市	小田原市	藤沢市	横浜市	相模原市	逗子市	茅ヶ崎市	葉山町	横浜西区	神奈川県	東京23区
2020	115.8	98.7	97.4	92.9	91.1	88.9	81.6	81.3	77.8	210	90	130

交通分担率

= どの交通手段で移動しているのか

手段選択への影響要因：

- ・ 公共交通インフラの有無
- ・ 地形
- ・ ライフステージ など...

鎌倉市の率を見ると...

鉄道: <30~40%

バス: 鎌倉地域 <6~8%

その他地域 <4~6%

自動車: 鎌倉地域 <20%

その他地域 <20~30%

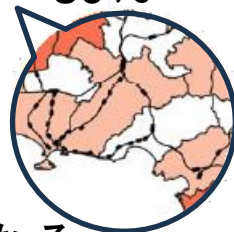
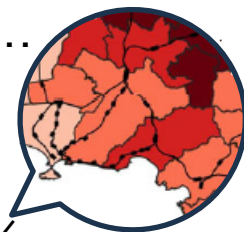
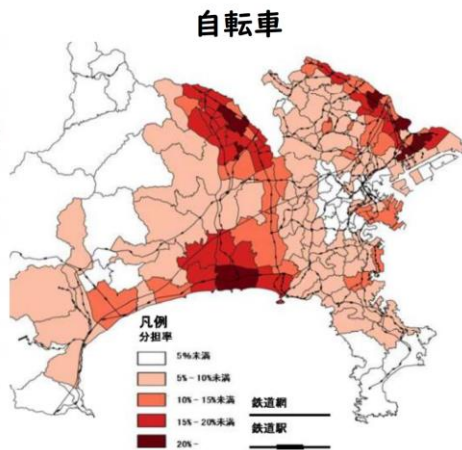
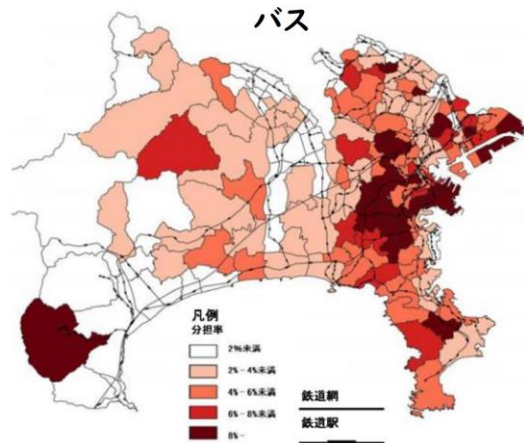
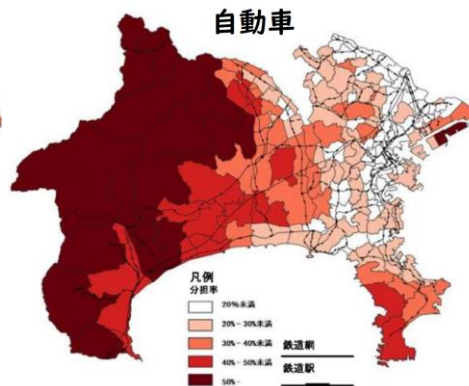
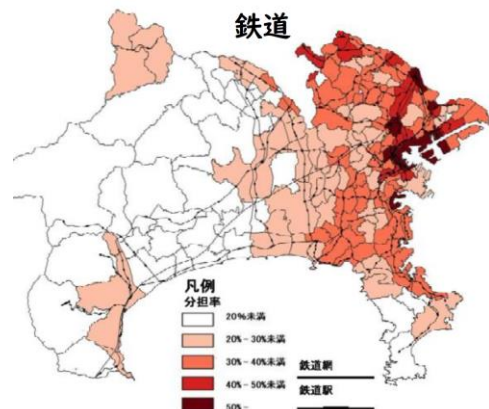
自転車: <5~10%

鎌倉市の交通の特徴は...

鉄道: 中位

自動車/バスは地域で異なる

自転車: 低い (ただし大船駅は自転車利用トリップ数県内10位)



公共交通 - 鉄道網 -

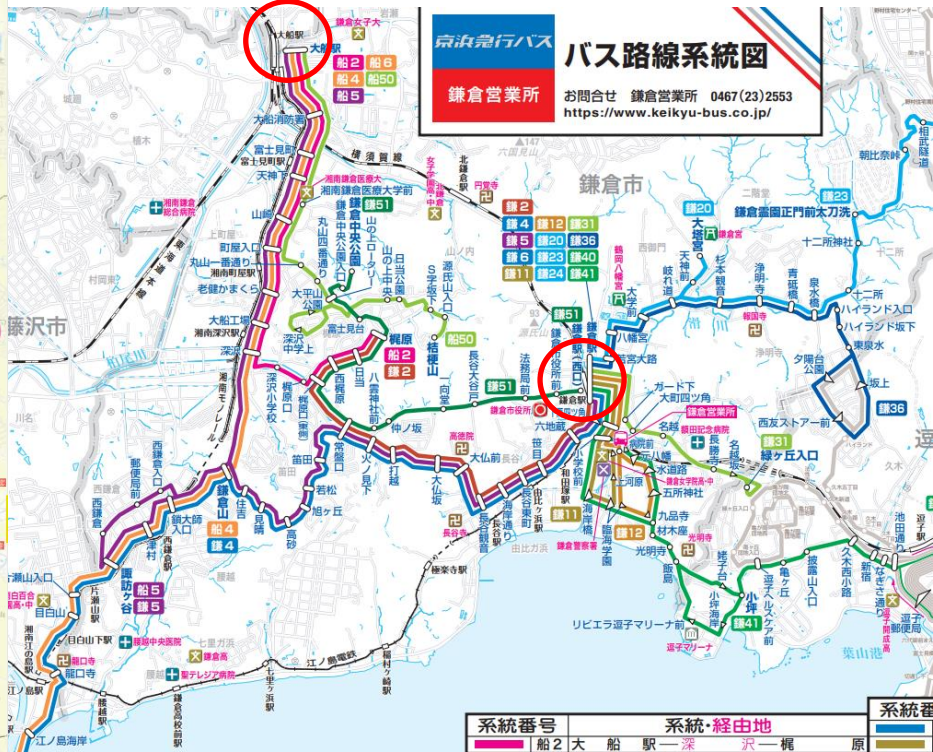
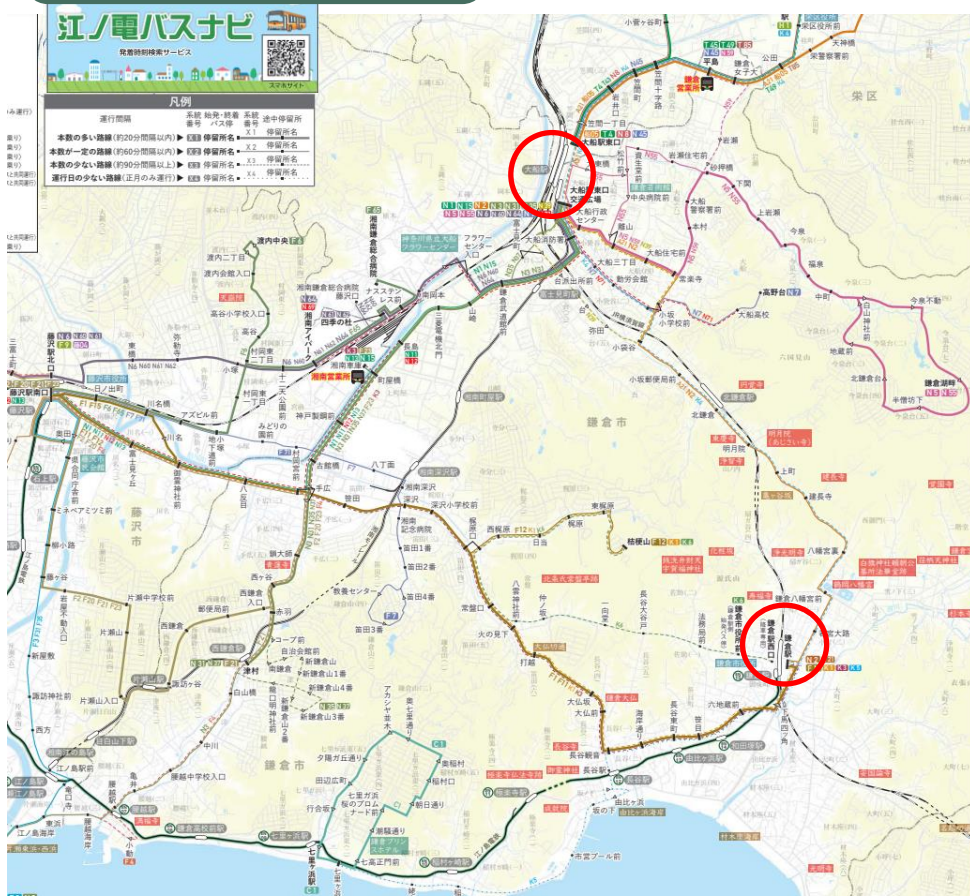
大船と鎌倉という二つのターミナル駅を拠点にJR 2路線、江ノ島電鉄、湘南モノレールなど、**計16駅**という豊富な鉄道網がある。

鎌倉市では、江ノ電および湘南モノレールは、JR線間をつなぐ**「バスの的な」地域交通**と位置づけられている。



公共交通 - バス路線 -

大船駅、鎌倉駅を拠点に藤沢方面との多くのバス路線が走っている。



<https://www.keiyo-bus.co.jp/line/pdf/map/kamakura.pdf>

https://www.enoden.co.jp/bus/regular/route-map/pdf/enoden_bus_map_shonan_202403.pdf?20241013032033

公共交通網 - 全体 -

京急と江ノ電バスを合わせた市全域のバス路線（赤線）

江ノ電バスと京急バスで相互補完的に広範囲をカバーしている。鉄道と合わせて考えても、ここまで公共交通に恵まれた地域は稀少ではないか。



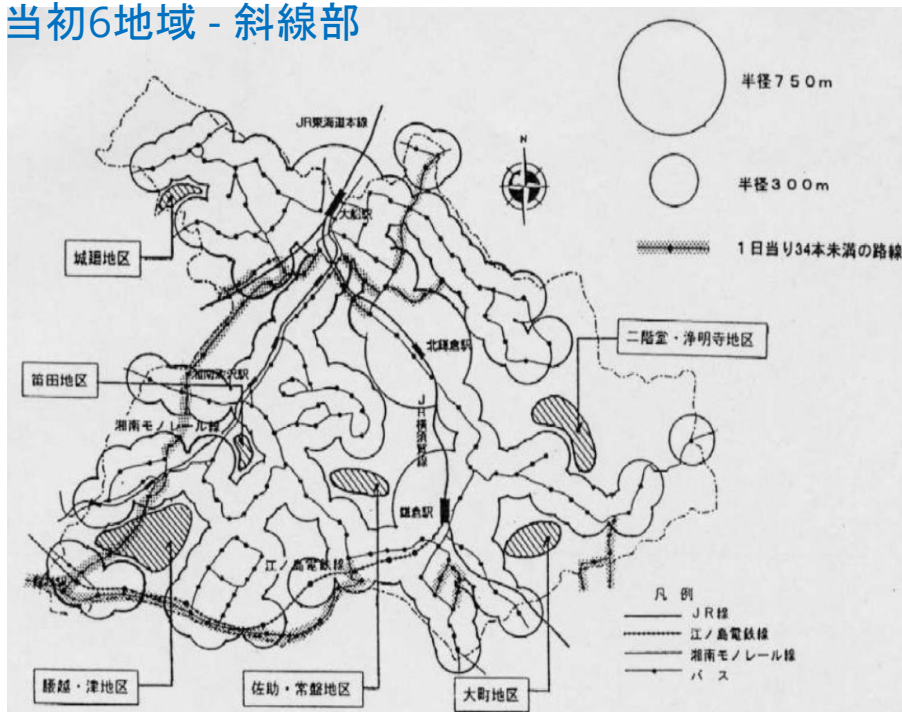
国土地理院 基盤地図情報および国土数値情報バスルート、
鉄道情報などを基に作成

公共交通不便地域

1999(平11)年3月策定の「鎌倉市オムニバスタウン計画」において「交通不便地域」6地区を設定(左)

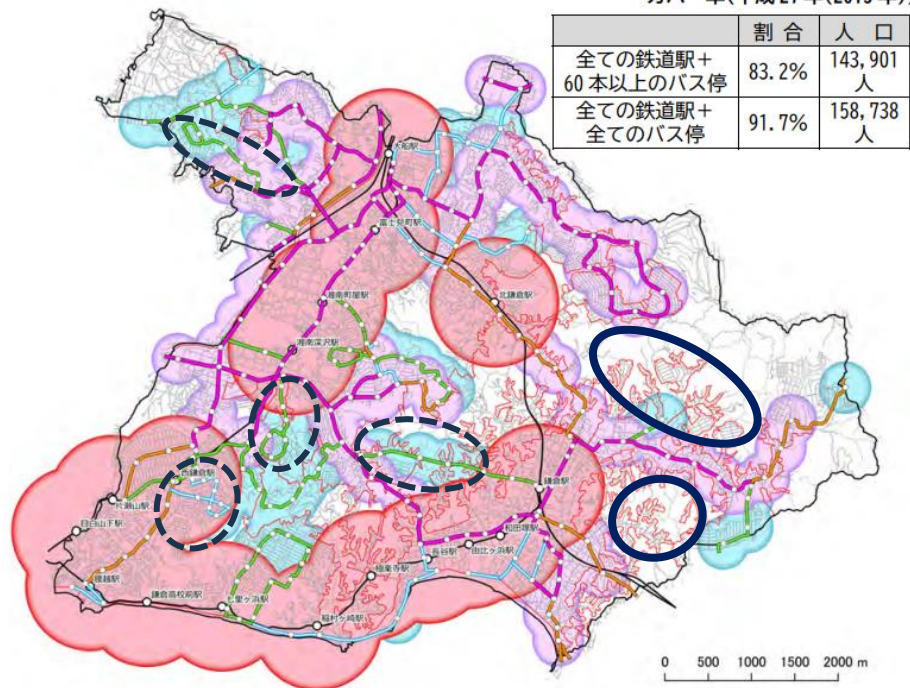
→このうち4地区(右図 点線)ではバス事業者によるコミュニティバスを導入済

【1999年鎌倉市オムニバスタウン計画策定時】
当初6地域 - 斜線部



【2015(平27)年 都市マスタープラン】

(徒歩利用圏内の居住人口の
カバー率(平成27年(2015年)))



鎌倉市 オムニバスタウン計画

オムニバスタウン計画とは... マイカーに比べて、人、まち、環境にやさしいバス交通を充実させることにより、自動車事故、渋滞等まちが抱える交通問題の解決を図ろうとする計画

計画の基本理念：

「鎌倉の環境と市民生活とが調和したバス交通の創造」

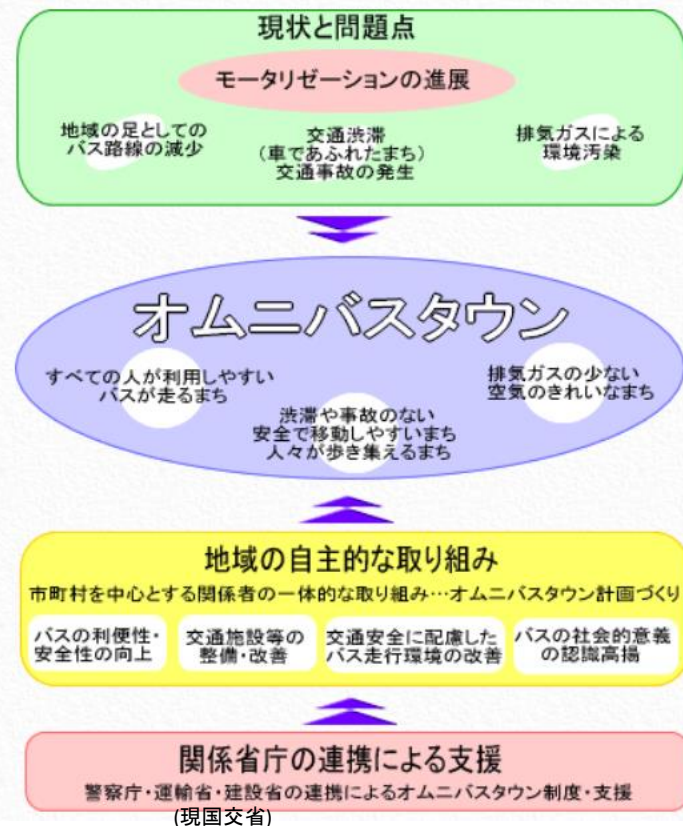
基本方針

- 1) 利用者の立場に立ったバスサースの充実
- 2) 公共交通機関相互の連携が図られたバス交通体系の実現
- 3) バス走行環境の総合的向上
- 4) 移動制約者が利用しやすいバス交通の実現
- 5) 環境負荷の小さなバス交通の実現
- 6) バスの利用促進に向けた意識の高揚

短・中・長期
ごとに優先課
題に取り組む

最優先課題：「鎌倉型バスシステムの創造」

鎌倉の特徴ともいえる多くの狭隘道路において、人と環境にやさしい「小型・低床・低公害」の車両を使ったコミュニティバスを運行し、「市民の足」となるバス路線を確保することで、市域に存在する「交通不便地域」の解消を図る



公共交通不便地域解消に向けた取り組みと課題

バス事業者による「コミュニティバス」の導入 (点線の4地域)

【経緯】

(オムニバスタウン計画作成以前より)
鎌倉市が市の事業としてコミュニティバスの実証運行を国に申請。
実証後、バス事業者の事業として(すなわち、市の補助を入れずに)
「コミュニティバス」として事業化。住宅地の停留所を倍増し江ノ電鉄道とバスで料金優遇(乗り継ぎ割引)を導入するなど様々な便宜が図られた。

しかし、利用者減等による廃線や減便という新たな課題に直面している。

利用者がいかに使っていくかが持続性の鍵でもある！

未解消の2地区 その1【二階堂・浄明寺地区】

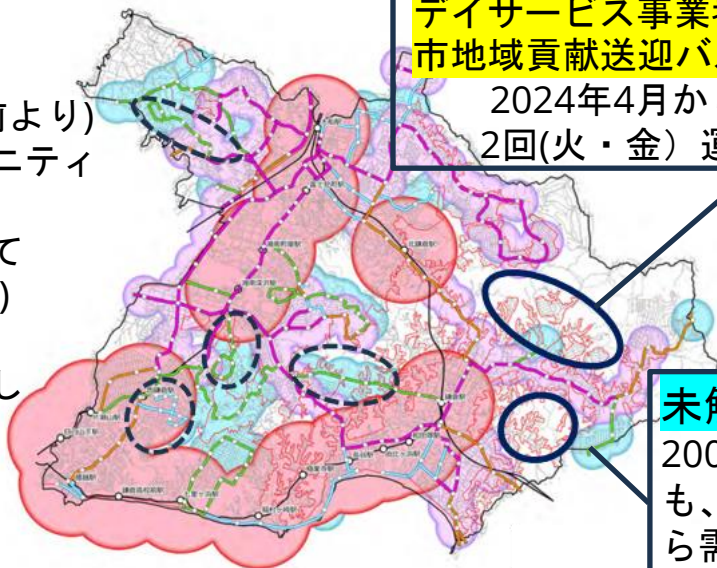
小型バスも入れない谷戸の入り組んだ道路という制約
→2020年 オンデマンド型バスやカート型スローモビリティの実証実験(無償乗車)を実施。その後の住民アンケート調査(2021)、新たな交通システム導入検討委託事業(2022)、関係者との調整を経て、**地域の高齢者デイサービス事業者の日中の空き車両を利用した鎌倉市地域貢献送迎バス**の実証を2023年秋より実施。

2024年4月からモデル事業化。鎌倉宮を起点に週2回(火・金) 運転。乗車は無料(市が助成)。

※**鎌倉市地域貢献送迎バス**としては玉縄一戸塚区方面、イトーヨーカドー大船店の駐車場から今泉台一丁目～七丁目路線もある

未解消の2地区 その2【大町地区】

2008年(平20)乗合バスの実証を実施するも、短期間の制約に加え、当時の風潮から需要がほとんどなかったため事業化に至らず。比較的平坦な土地が多いためかその後住民からの声もない→対策もない。



市内初、EV路線バス発車

江ノ電が2台運行へ

社会

神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙

タウンニュース

2024年3月29日公開

EV路線バスの導入

江ノ電バスは鎌倉・藤沢地域の路線バスでは初となる、EVバス（電動バス）の運行を3月下旬から開始する。鎌倉市・藤沢市との連携による

脱炭素社会実現へ向けた取り

組みの一環として、同社湘南営業所（藤沢市）に大型車と小型車のEVバスを各1台導入。22日に両市の関係者らが出席し、出発式が行われた。

大型車は80人乗り、小型車が35人乗り。夜間に営業所で充電し、1回の充電で走れる距離はそれぞれ約240Kmと約200Km。路線バスの1日平均運行距離およそ100～150Kmを十分に走行することができる。車体には、江の島や海、大仏などの藤沢と鎌倉の風景とともに江ノ電グループのキャラクター「えのんくん」が描かれている。



出発式でお披露目された2台のEVバス

まちとバスが一体となり、環境に配慮したまちづくりを推進していきたい。
(江ノ電バス 飯塚社長)

環境に配慮した持続可能なまちづくりを進めている中で、事業者、市民の協力のもと新しい取り組みを江ノ電バスがしてくれたことに感謝。(鎌倉市 千田副市長)

EVバスは軽油を燃料に使うディーゼル車両と比較して、二酸化炭素の排出量を大型車で約2～3割削減できるという。走行中の騒音や振動が少ないのが特長だ。災害時には「走る蓄電池」としての活用も可能となる。

EV路線バスの導入

「2050年のカーボンニュートラルを目指し、市民と事業者、自治体がパートナーシップで取り組んでいく。EVバスが市民にとってなじみのあるバスになることを期待する」（藤沢市 鈴木市長）



まずは
気づこう

ぜひ乗って
みよう

試運転や調整を経て6月中旬以降実働開始か

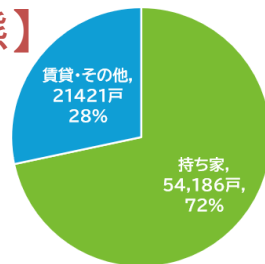
- ・ N13, F11, F1（藤沢駅 ↔ 鎌倉駅）
 - ・ N1, N6, N60, F6, F65（大船駅 ↔ 藤沢駅）
- 主に2市にまたがる長距離路線に導入

住まいと建築物

総住宅戸数：76,960棟

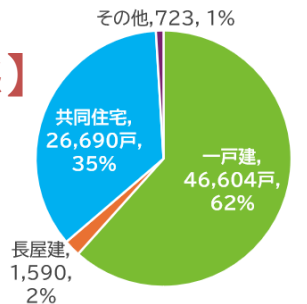
(平成30/2018年10月1日時点)

【所有形態】



- ・ 持ち家率が高い：72% (↔ 藤沢市 60%, 平塚市 79%, 神奈川県 54%)
- ・ 共同住宅よりも戸建てが多い (62%)
- ・ 一軒の面積が広い：住宅専用建物で平均116m² (↔ 藤沢81m², 大和 77m²)

【建築形態】



【建築の時期】

省エネ基準④
1999(H11)年 ↓

今 省エネ基準④義務化 (2025)
後 省エネ基準⑤義務化 (2030)

	総 数	建 築 の 時 期								
		昭和45年 (1970年) 以 前	昭和46年 (1971年) } 55年 (1980年)	昭和56年 (1981年) } 平成 2 年 (1990年)	平成 3 年 (1991年) } 7 年 (1995年)	平成 8 年 (1996年) } 12年 (2000年)	平成13年 (2001年) } 17年 (2005年)	平成18年 (2006年) } 22年 (2010年)	平成23年 (2011年) } 27年 (2015年)	平成28年 (2016年) } 30年 9 月 (2018年)
住 宅 総 数	70,960	5,420	10,390	10,030	5,570	6,650	9,630	7,880	6,570	3,250
木 造	15,350	2,650	2,910	1,920	1,110	1,280	1,320	1,340	970	450
防 火 木 造	31,610	2,120	4,890	4,400	2,710	3,200	3,820	3,270	3,070	1,460
鉄筋・鉄骨コンクリート造	20,060	570	2,460	2,960	1,570	2,010	3,900	2,900	1,800	1,040
鉄 骨 造	3,810	70	130	730	170	160	570	370	690	290
そ の 他	130	20	—	20	20	—	20	—	40	20

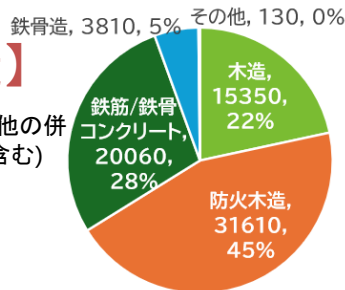
↑省エネ基準②
1980(S55)年

↑省エネ基準③
1992(H4)年

耐震性, 断熱/省エネ性, ZEH等, 防災や脱炭素の観点から

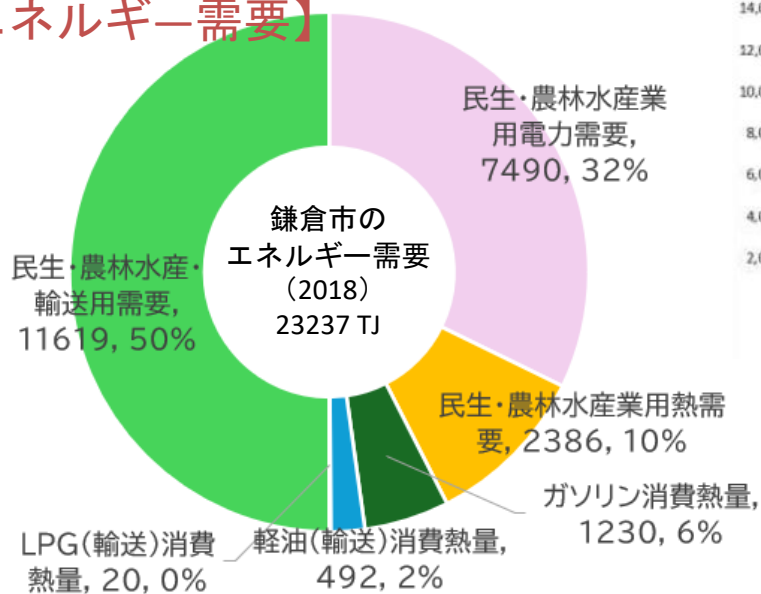
更新時期がチャンスでは？

【構造】
(店舗その他の併用住宅を含む)



エネルギー需給

【エネルギー需要】



エネルギー需要の大部分が 民生(家庭/業務)と農林水産業用の電力と輸送用に使われている。

ポテンシャルを最大限生かすには設備導入(パネル+蓄電池、EV、断熱性能アップなど)に加えて、省エネや発電に合わせた行動変容も重要に

【再エネ導入容量の推移】

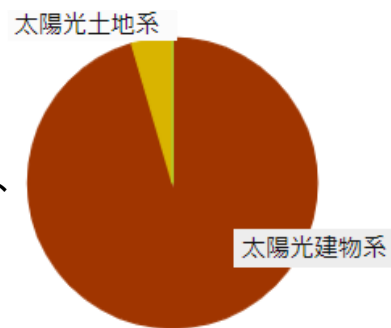


鎌倉市での再エネポテンシャルは、導入実績ともに基本的に太陽光発電。自給率は3.4% (2020年)

【再エネポテンシャル】

最大で222%(※)とも

※太陽光発電設置可能面積のうち耕地への営農型太陽光発電は15%、耕作放棄地は30%、その他の屋根などは50%に太陽光発電を置いた場合



データの出典：左上および右下 未来カルテ2050、REPOSなどをもとに作成
右上 令和5年度版かまくら環境白書より転載

太陽光パネル



This satellite map shows the Ohta area in Kanagawa Prefecture. A green callout box in the top left corner points to a building with solar panels and contains the text "太陽光パネル". A yellow callout box in the center contains the text "集合住宅の屋根に置かれている場所もある". A red callout box on the right points to a large industrial building labeled "ZEB関連技術実証棟SUSTIE". Other labels on the map include "大船", "松竹離山通り", "ダイヤモンドキッズ湘南", "デニーズ 家族向き", "鎌倉市消防本部 大船消防", "サンク sunc hair", "みん水澄 ラーメン", "(株)ミスノ", and "あまほデイサービス". A small inset map in the top right corner shows the location of Ohta within the greater Tokyo area.

This satellite map of the Ohta area in Kanagawa Prefecture features several annotations related to solar panel installation. A green callout box in the top left corner, labeled '太陽光パネル' (Solar Panel), points to a yellow-outlined rectangular area on a residential roof. A yellow callout box in the center, labeled '集合住宅の屋根に置かれている場所もある' (There are also places where they are placed on the roof of apartment buildings), points to three red-outlined rectangular areas on various residential roofs. A red-outlined rectangular area on the right side of the map is labeled 'ZEB関連技術実証棟SUSTIE' (ZEB-related technology demonstration building SUSTIE). Other labels on the map include '大船' (Ohta), '松竹離山通り' (Matsutake Rishan-dori), and various local businesses and landmarks.

This satellite map of the Ohta area in Kanagawa Prefecture features several annotations related to solar panel installation. A green callout box in the top left corner, labeled '太陽光パネル' (Solar Panel), points to a yellow-outlined rectangular area on a residential roof. A yellow callout box in the center, labeled '集合住宅の屋根に置かれている場所もある' (There are also places where they are placed on the roof of apartment buildings), points to three red-outlined rectangular areas on various residential roofs. A red callout box on the right side, labeled 'ZEB関連技術実証棟SUSTIE' (ZEB-related technology demonstration building SUSTIE), points to a large industrial building with a grid-like roof structure. The map includes various landmarks such as '大船' (Ohta), 'ダイヤモンドキッズ湘南' (Diamond Kids Shonan), and 'デニーズ 家族向き' (Denny's Family Style). A small inset map in the top right corner shows the location of Ohta within the greater Kanagawa region.

太陽光パネル



玉縄

植木小学校の屋上
に置かれている



太陽光パネル



深沢中学校付近の戸建て
は他の場所より設置率
が高い

太陽光パネル



腰越

消費 1

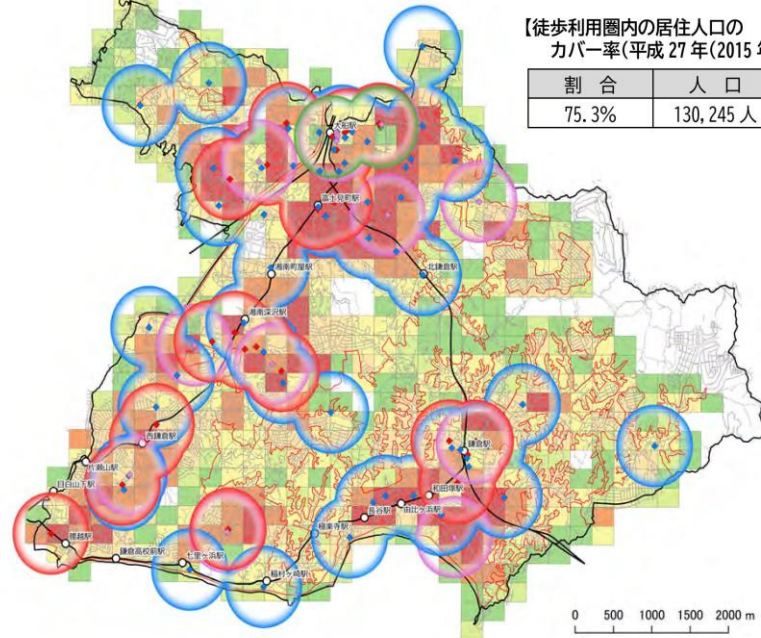
駅周辺を中心とした商業施設の立地

- ・市内の大規模商業施設(ショッピングセンター)は、大船駅周辺に立地
- ・スーパーマーケットは、大船駅、鎌倉駅周辺にまとまって立地。七里ガ浜等の丘陵住宅地の中心にも。
- ・コンビニエンスストアは、人口密度が高い箇所に広く分散。国道134号沿道での通過交通による需要も見込んだ立地も。

【商業施設の分布状況と徒歩利用圏(半径 500m) + 人口密度 (平成 27 年(2015 年))】

【徒歩利用圏内の居住人口のカバー率(平成 27 年(2015 年))】

割合	人口
75.3%	130,245 人



凡 例



※下図の 250m メッシュでは、商業施設は年代問わず利用する施設であることから、全年代含めた人口密度を示しています。

出典：国勢調査、総務省（平成 27 年(2015 年)）
各事業者 HP（令和 3 年(2021 年) 4 月時点）

商店街の立地と利用状況

・商店街の利用

「週1～2回利用」50%近く

➡「近所だから」

「ほとんど・まったく利用しない30%弱

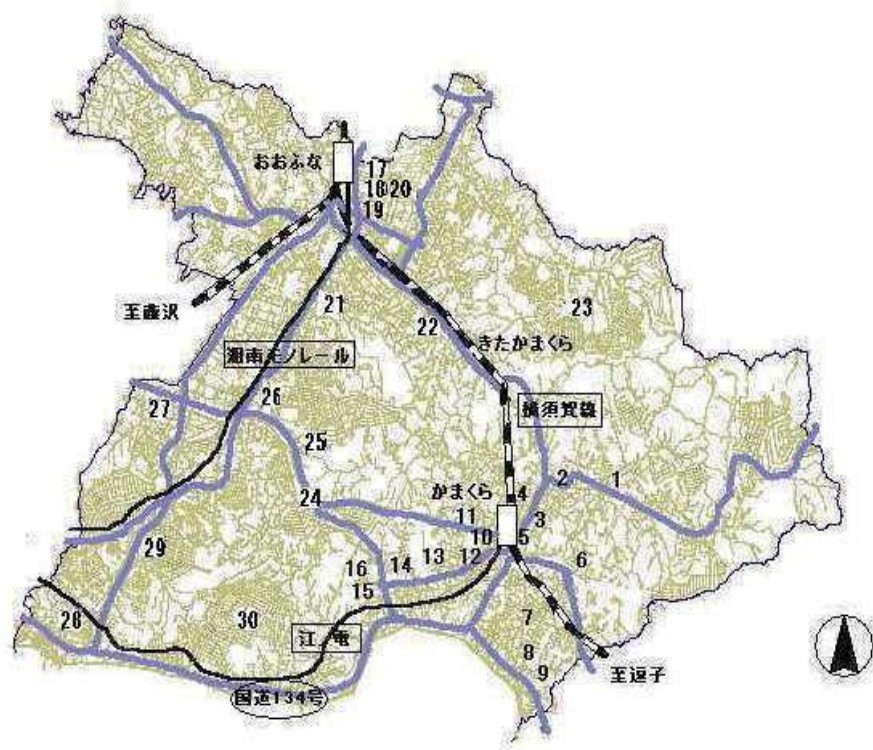
➡「近所になから」

居住地の近くに商店街が「ある」と「ない」
がほぼ半数ずつ。

・商店街に期待する取組内容

「宅配サービスなど、遠くまで買い物に出
かけられない方に対する取組み」40%近
く。特に50歳代女性では半数以上。

※地図中の数字は、商店街を示す。鎌倉駅、大船駅
周辺や鉄道・モノレール沿線、一部丘陵地に見られる。



地図: <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/shoukou/link/shouten.html>

アンケート: 鎌倉市「産業振興に係る市民・事業者意向調査報告書」(市民の意識調査編)平成24年3月

宅配サービスの利用

種類	内容
生協宅配 4件	おうちCO-OP,生活クラブ神奈川、パルシステム、福祉クラブ生協
スーパー宅配 8件	ネットスーパーとは別に、昔から鎌倉地域限定の配達サービスを行っているスーパーがある。
食材宅配 5件	忙しい人のためのレシピ付き食材セットなど
お弁当・おそうざい 11件(一部閉店含む)	テイクアウトをできる店の中で、配達・ケータリング可能な店舗がある。
宅食・配食サービス 10件	病人・高齢者の食事として、栄養バランスを考えた献立を毎食届けてくれるお食事配達サービス。
出前サービス 2件	出前館、 <u>Uber Eats (ウーバーイーツ)</u>

出典：鎌倉暮らしと子育てガイド <https://kosogai.com/shopping/eat-delivery/> (2024.10.17閲覧)

★老後の住まいで不安に感じていること➡「家や庭の維持管理」38.7%、
「通院や買物」35.9%、「介護のため自宅で暮らせなくなること」32.7%等

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kenchiku/documents/2syo.pdf>

住宅・住環境の現状と課題 調査：2016年8月30日から10月3日

農業・漁業

【鎌倉の農/漁業指標】

農業産出額（2020） 3.8億円

「鎌倉やさい」「腰越のしらす」
どちらもブランドとしての地位

- ・ 鎌倉市農協連即売所 ・
- ・ 各農漁業者による様々な直売所や飲食店への卸

- ・ スーパー・小売店等で販売

→生産地と消費地が近接した典型的な都市農業・漁業として発展

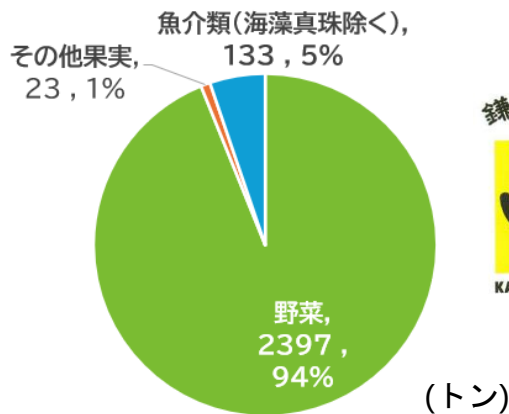
しかし少子高齢化などにより従事者の減少が課題に
農家数

180戸(2000) → 137戸(2015) → 123戸(2020)

農林業従事者数 466人 高齢化率 43%

漁業従事者数 62人 高齢化率 34%

(その他産業の高齢化率は15% ※)(2020)



(内訳)	いも類計	0.2
	だいこん	0.2
	にんじん	0.1
	さといも	0.1
	はくさい	0.1
	キャベツ	0.1
	ほうれんそう	0.3
	レタス	0.1
	ねぎ	0.1
	きゅうり	0.6
	なす	0.2
	トマト	0.5
	ピーマン	0.1
	花き	0.3
	海面漁獲物等	2.5
	海面養殖	0.3

※1次産業は定年後も働き続けられる特性もあるが、若い後継者不足は深刻で、**40歳未満比率は農林業で14%、漁業で12%**

地産地消の観点

ブランド化は進んだものの、小規模
→ 農業は右図に載ってくるほどではない
(規模は農業より小さいが、生産額が高い
しらすは掲載されている)

→ 食糧自給率にするとわずか 0.4% (2020年)
食糧自給率ランクでは 1661位 (1740自治体中)
(類似の周辺自治体も同様に、鎌倉が特別
低いわけではない)

⇒ 「地域」を少し広くとらえてみる。
まずは 地のもの → 周辺自治体 → 県内
そのあとに 国内 での地産地消を
と考えると、選択肢も増え 安定性も向上する。

【鎌倉と周辺地域の農・漁業】



ごみの排出量

「ゼロウェイストかまくら」 実現に向けて様々な取り組み

ごみ総量は

2012年 67503トン から

2022年 56779トン に。 ↓16%減

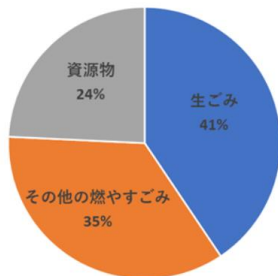
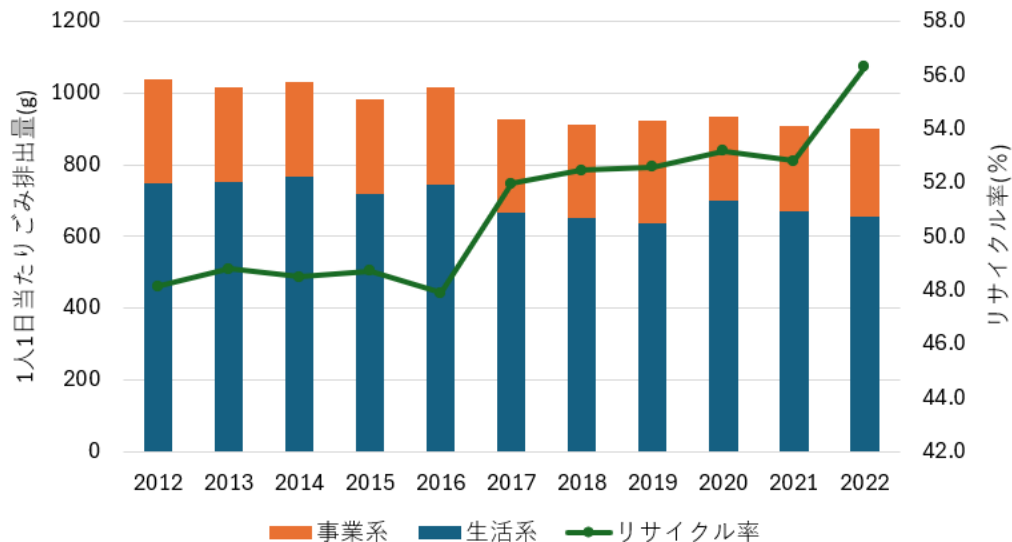
焼却量も 2018年度に 3 万トンを下回り、
1990年度の72,621 t から約60%減。

分別品目の拡大等により、資源化率
(リサイクル率)人口10万人以上の市町村
の中で全国トップレベルの水準で推移

一人当たり排出量（生活系）では
県内33位中16位(※)

2022年度からの新しい集計「家庭系」ご
みでは県内堂々の2位！

※仕事の拠点や観光地があるとごみ量は多くなりがち



2023年実施の組成調査で燃やすごみ
の中に占める、手付かず食品(未開封
食品類)は3.8%と判明。

重量に換算すると、約740トン

⇒ 年間約1,600トンもの食品ロス

⇒ 家庭でもまだできることはありそう...

データの出典：上図 未来カルテ、環境省一般廃棄物処理実績データをもとに筆者作成
その他、鎌倉市HP ごみ関連のページを参照

観光について

年間2000万人以上の訪問を受ける観光拠点。

地域経済にとっても欠かせない。

だが、おいていくものは経済効果だけではない...

- ・ ゴミ：観光客によるぽい捨て
事業系を含むゴミ総量の増加
- ・ 交通渋滞: 観光に関する注意や
パーク＆ライド等多くの施策の実施
- ・ 交通量増加によるCO2排出増 ほか、
局所的な大気汚染、そして、何より
市民生活への影響は深刻 ←江ノ電による市民優先乗車の実証実験も始まった...

市民への影響を軽減しながら、脱炭素策にもなる、さらなる打開策は...？

気候変動による観光への影響は心配しなくてよいか...？ (海への影響、災害リスク等)

交通

お知らせ

- ◆ 観光地周辺での観光バス等の乗降及び待機は御遠慮ください！

交通情報など

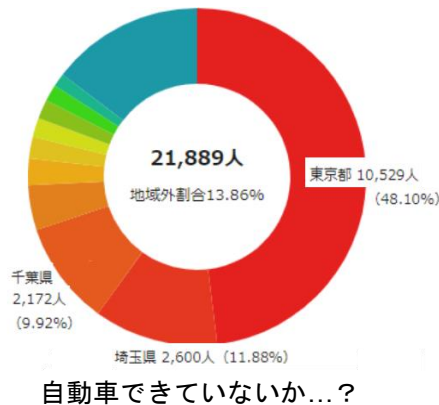
- ◆ 鎌倉の交通情報
- ◆ 観光バス駐車場のご案内
- ◆ 土曜日・日曜日・休日の主な交通規制について
- ◆ 公共交通機関の運行状況
- ◆ 年末年始の交通規制のお知らせ

鎌倉フリー環境手形・パーク＆ライド

- ◆ 鎌倉フリー環境手形
- ◆ パーク＆ライド
- ◆ 協賛店舗等の情報
- ◆ 協賛店舗等の募集

トップは観光
関連の注
意喚起

すでに様々
取り組まれ
ているが...



鎌倉小町商店街が作った「おててなし袋」は防水性も備えているので、スナックの持ち帰りなどにも利用

データについて

本資料で示した情報の多くは政府や自治体のオープンデータによって作成しました。各種将来推計には複雑な前提条件等がありますが、この資料では触れていません。前提条件等について確認したい場合は出典をたどってください。

特に鎌倉市役所のホームページでは、本資料でご紹介したような土地利用や人口統計、世帯の情報など地区ごとの情報が掲載されています。

未来カルテは、研究プロジェクト「オポッサム (OPoSuM-DS/OPoSSuM)」(研究代表者: 千葉大学倉阪秀史) の成果物です。

REPOSは、環境省による再生可能エネルギー情報提供システムです。

RESASは内閣府が提供する地域経済分析ツールです。



鎌倉市 Kamakura City

令和5年(2023年)版

鎌倉の統計

鎌倉市

統計

- ◆ [人口](#)
- ◆ [主な統計調査](#)
- ◆ [鎌倉の統計\(統計書\)](#)
- ◆ [オープンデータ](#)
- ◆ [統計調査に関するお知らせ・調査員などの募集](#)
- ◆ [第73回神奈川県統計グラフコンクール募集について](#)

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/shisei/toukei/index.html>

<https://www.e-stat.go.jp/>